

# GAP 元年の夜明け

今年第2号目のTHE MAC JOURNALは、今までの形式と異なり、賀詞交換会などで話題沸騰の「GAP」に関し、編集局による当社上杉社長へのインタビューをシリーズでお送りします。

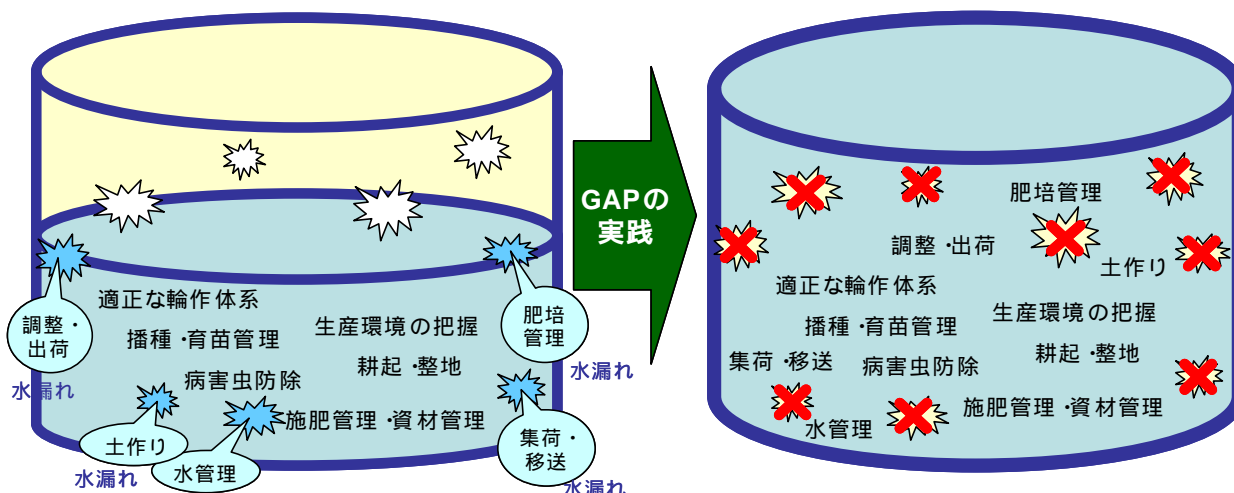
**編集局** 編集委員として業界紙に目を通すことが多いのですが、新春特集号を見ておられますと「GAP」関連の記事が目につきます。農林水産省 消費安全局 嘉多山課長はGAPの普及に関し肥料業界の協力を求められておられますし、また社長自身も年頭の挨拶で農産物流通の変革における「GAP」の重要性が増すと話されていますが、読者の方々に出来るだけ分かりやすい説明をお願いします。

**社長** GAPは英語の Good Agricultural Practice の頭文字を並べたもので、日本語で「適正農業規範」と言われておりますが、確かにピンとこないかも知れません。農水省は講演などで「いい農業をしましょう」とやさしい言葉で置き換えられておられます。カイワレ大根のO-157食中毒、BSE問題などを切っ掛けに消費者の「食の安心・安全」への関心が高まっております。また、表示偽装では「この農産物はどの県の誰がつくったの?」、安全面では「この果実とか野菜に農薬が付着していないでしょうね!」等の主婦の声がテレビのお茶の間番組で特集されるようになりました。最近では食品加工工場で完全な衛生管理を求められておりますし、生鮮食料品流通でもチルド・冷凍輸送の技術進歩並びに普及で安全面では格段の発展を遂げております。また、消費期限の切れた材料を使用した企業は社会的な制裁を受けるようになり、今まで以上に安全面確保の為に投資をしています。農業生産現場を見てみますと、プロの方々による独自のやり方がありそれはそれで適正かと思いますが、消費者、食品流通の方々からは、「より安心できる農業はないの」とかの声があります。農水省は種々の法律で安全管理をしておりますが、六法全書を片手に農作業をするのは難しく、このやり方を身に付ければ法律面でも問題なく、消費者の安心への懸念も払拭できるのがGAPと言われております。また、世界的に環境への関心が高まっているなかで、農水省も農業への環境負荷を如何に軽減するかで苦心しております。GAPは農業生産現場での広範囲な農業環境負荷軽減を提言しております。

**編集局** 消費者の食品の安心/安全への関心の高まりが、農業生産現場でのGAP = 「いい農業をしましょう」導入に至った切っ掛けは分かりましたが、具体的にはどのような事があるのでしょうか。

**社長** 作物・地域・気候によって農作業のやり方は異なりますが、平均的な農作業の工程を分解し、作物ばかりでなく農業従事者への「安全へのリスク」を取り上げると約200項目になります。この200項

GAPを実践することによって、水瓶の穴を防ぐ事ができ「**安心 安全の水位**」を保つことができる



(前ページより続く)

目を確り管理することで、リスクを減らそうというのがGAPの狙いです。私がユーレップGAPの認証を取得された青森の片山農園に視察に行ったときに垣間見たいいくつかの例を挙げますと、「大圃場では簡易トイレを作りそこで用を足しましょう、その後は手を水洗いしアルコール消毒しましょう」「タバコの吸い殻を圃場にポイ捨てるのは止めましょう」「農作業が終わったら長靴を水洗いしましょう」「希釈した農薬が残っていて再使用しない場合は、廃棄物管理を確りしましょう」「農薬のポリ容器は使用后、水洗いしましょう」など農業のプロには当たり前のことですが、一つ一つ確認してやるのが求められています。また他の作業員の方々にも励行してもらう為に、掲示板を作りましょうとか、どの圃場でどのような肥料・農薬を、何時・どの程度使ったかを記帳しましょう等もチェックリストに入っております。

編集局 「当たり前のことを当たり前にやる」これは簡単なようですが毎日続けることは結構大変なことですね。ところで、話しにでましたユーレップGAPですが、聞きなれない言葉です。また、GAPそのものがこの時期に突然でてきたような感じを受けますが、その辺も解説していただけませんか。

社長 ヨーロッパはEU加盟国間でも国境がなくなり、農産物も自由に行き交うようになりました。ヨーロッパは表土が薄く畑作中心なことから農業環境問題には世界一敏感な国民ですが、BSE問題以降農産物の安全性にも消費者は過敏となりました。日本と違い複数の大手食品流通・量販店が市場を席卷しており、EU域内ばかりでなく中国、アフリカなどから大量の農産物を輸入しております。この民間業者たちが農産物・食品加工品を如何に安心して消費者に買ってもらうにはどうしたらよいかの知恵をしばり農業生産現場のGAPを作成しました。EU域内では、このGAPの認証を受けた農場からの農産物でないといと流通が難しくなってきました。これをユーレップGAPと呼んでいます。この流れを受けてEUへの農産物輸出ではユーレップGAPとの同等性をもった独自のGAPを立ち上げるようになりました。アジアでは台湾、中国、韓国でGAPを大規模に展開する動きがあり、取り分けEUに大量に農畜産物を輸出している中国は国をあげてGAPの推進を図ろうとしております。ユーレップGAPと同等性のある中国版GAPはチャイナGAPと呼ばれております。早ければ今年4月ごろに国際的に認知されるとも言われております。昨今日本でも輸入野菜が増えておりその半分は中国からの輸入となっております。中国政府は「チャイナGAPの認証を受けた農場からの農産物に関しては、国際的に安全が担保されており、日本市場でも安全な農産物として認知されてしかるべき。」と言っているようです。ところが、日本ではGAPそのものの認知度が低い上に、日本独自のGAPが立ち上がっておりません。このような背景があり、民間と農水省が協同で日本独自のGAPを出来るだけ早く普及させることで動き出しました。

(次号に続く)



## 岩崎弥太郎生家を訪ねる

岩崎弥太郎は三菱グループの創始者として知られていますが、高知県安芸市出身であることは意外にも知られていません。生誕の地には

今も生家が保存され、一般公開されています。

生家には、幼少の弥太郎が大志を膨らませたという日本列島を形どった庭石が残っています。また、生家の前には童謡作曲家の弘田竜太郎の曲碑が鎮座し、<春よこい> ~春よこい 早くこい あるき始めた みいちゃんが 赤いはなおの じょじょはいて おんもへ出たいと 待っている~の テープが流れている 土佐に来とおせ(土佐弁で来て ください)!と呼んでいるようだ。



今テレビで話題になっている、納豆のダイエット効果についての情報偽装問題。情報操作の問題だけではなく、増産体制に入ったばかりの納豆業者が注文のキャンセル続出で損害が出る可能性もあるようです。情報提供する者として、襟を正す気持ちになった出来事でした。

編集局長：吉野友隆 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp